

鳥取県産カマキリ図鑑

鳥取県立博物館
佐藤隆士

はしがき

鳥取県は自然豊かな県である。しかし、残念ながら県下に生息する「生物相」の解明度は低く、まとまった報告がほとんどないのが現状であった。

著者らは2006年より県下の直翅系昆虫相の解明に着手し、不完全ながらもそのリストを作成し（佐藤ら, 2007）、その情報をweb上で公開した

(<http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>).

今回、その第二段として「鳥取県産カマキリ図鑑」を作成したので、公表したい。

カマキリ目は数多い昆虫の中でも自信を持って県下のすべての種類を記録できたといえる数少ないグループの1つである。このため、今はまだ記録数が少ないものの、今後県内各地からの情報を収集することで、県下での各種の分布の詳細について確実に明らかにすることができるであろう。

当図鑑が、地域の自然史研究の推進や地域の方の身の回りの自然への興味や関心へと少しでも結びつくのに役立てば、著者としては望外の喜びである。

そして、最後に、鳥取県の自然史科学が今後、ますます発展することを祈りたい。

2007. 8. 5

目次

表紙.....	1
はしがき と 目次...	2
本図鑑の見方.....	3
本編.....	4-10

本編内訳

ヒメカマキリ科 (1種).....	4
カマキリ科 (6種).....	5-10

種名
学名
科名

解説

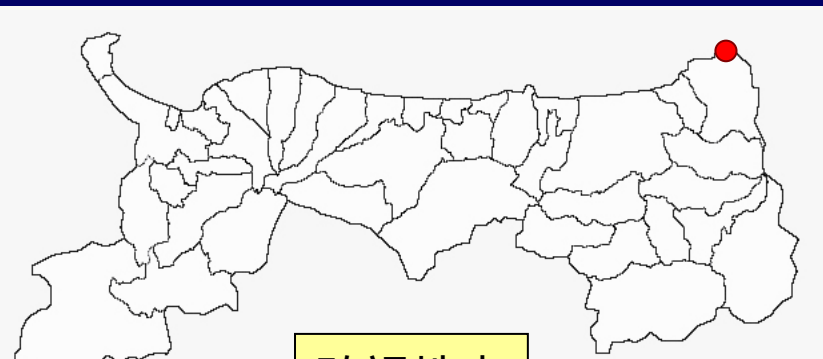
タツクン *Uno takumii* (ヒト科)



写真

岩美町牧谷 2007.4.15 (撮影: 永田理雄)

分布



確認地点

これまでの知見

体長120-130cm.
動きは俊敏. 泳ぎもうまい.
捕まると「ギャーツ」や「ワーツ」などと聞こえる大きな奇声を発する.
1年中, 海岸部と山中で見られる. 県内では特に岩美町牧谷周辺で昼間に観察されるが, 夜間の観察例は少ない.
営巣場所は別の箇所にある可能性が示唆されている.
しばしば天敵に捕獲されているのが観察されるが, いつも愛嬌によって切り抜ける.
逃げるとき, 悪態をつく.

ヒメカマキリ (ヒメカマキリ科)

Acromantis japonica Westwood, 1889



鳥取市東町産 成虫



確認地点

これまでの知見

照葉樹林に棲むずんぐりした体型の小型のカマキリ。

成虫は灯火によく飛来し、かなり上手に飛翔する。

古いサクラなどがある公園の周辺などでよく見られ、卵嚢は鞍型で古木の樹皮上や石の割れ目などに付着している。

県内では、久松山塊ではよく見られるが、記録は少なく、詳細な生息状況については不明。

ヒナカマキリ (カマキリ科)

Amantis nawai Shiraki, 1911



鳥取市東町産 成虫



確認地点

これまでの知見

照葉樹林の林床に棲むごく小さな無翅のカマキリ。

地上を敏捷に走りまわる。

卵嚢は鞍型で、末端部にスズメガの幼虫のような小さな突起を持つのが特徴。スギの樹皮下などでよく見つかる。

県下では、久松山塊ではよく見られるが、その記録は少なく、詳細な分布状況については不明。

ウスバカマキリ (カマキリ科)

Mantis religiosa (Linnaeus, 1758)



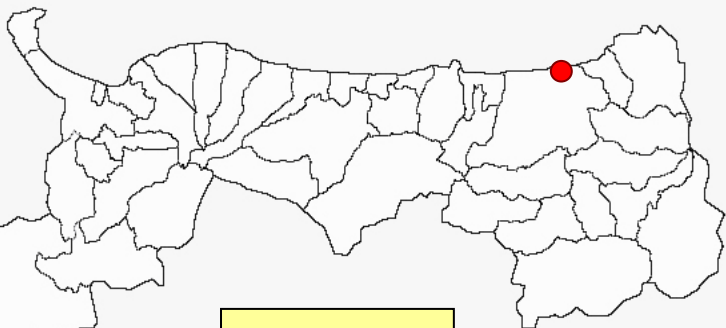
鳥取市浜坂産 成虫

これまでの知見

淡い緑色をした草原性の中型のカマキリ。

県下での記録はごく少なく、詳細な生息状況については不明。

前脚(かま脚)の腿節内側には黒色の楕円型(リング状の場合もあり)の斑紋を持つ。後翅は無紋。河川敷や攪乱草原に見られ、日本各地でRDB種に指定されている。



確認地点

コカマキリ (カマキリ科)

Statilia maculata (Thunberg, 1784)



倉吉市黒見産 成虫(緑色型)

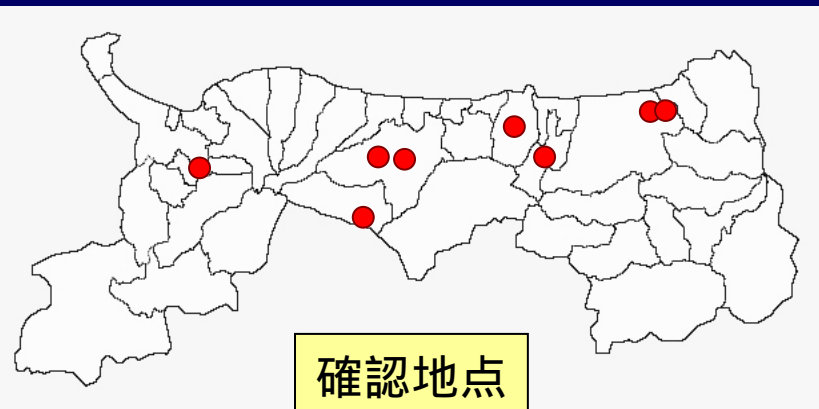
これまでの知見

草地から林縁に見られる
華奢な体の小型のカマキリ。

県下には普通で個体数も
多い。褐色型と緑色型が見
られる。

前脚(かま脚)の腿節内側
には黒色の、脛節内側には
白、黒、紫からなる斑紋が
ある。翅を広げると紫色の
模様が目立つ。

卵嚢は小さな舟形で、樹
皮下や石の下、各種看板
の裏側などでよく見つかる。



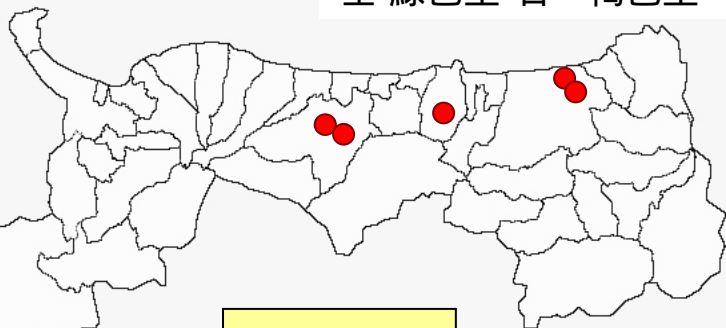
確認地点

ハラビロカマキリ (カマキリ科)

Hierodula patellifera (Serville, 1839)



鳥取市東町産 成虫
左 緑色型 右 褐色型



確認地点

これまでの知見

ずんぐりした体型と上翅の1対の白い斑点が特徴的な中型の樹上性のカマキリ。

県下には普通で個体数も多い。

頑丈な体躯を持ち、セミなどの大型の昆虫を捕獲している姿がよく確認される。

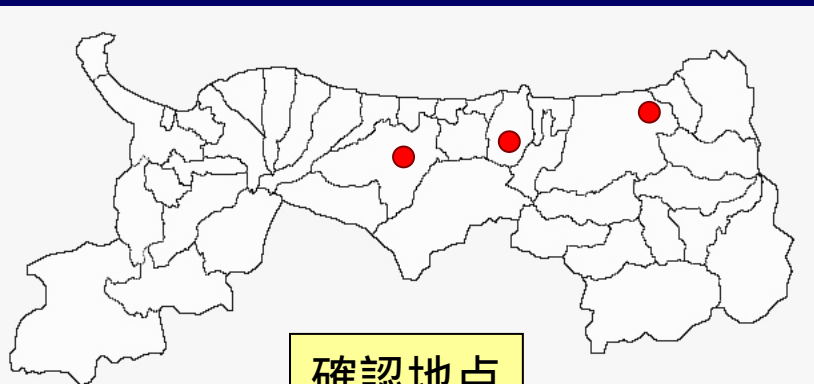
卵囊は卵型で灌木上や樹皮上、コンクリート壁面などに付着しているのをよく見かける。

チョウセンカマキリ (カマキリ科)

Tenodera angustipennis Saussure, 1869



鳥取市卯垣産 成虫
左 背面
上 腹面



確認地点

これまでの知見

草原に棲む大型のカマキリ。オオカマキリに似るが、やや華奢。オオカマキリとは胸の中央の斑紋がオレンジ色であること(オオカマキリでは薄い黄色)、後翅が無紋であることなどで区別できる。

県下での記録はごく少なく、詳細な生息状況については不明。

卵嚢は船形で、草の茎や灌木の枝などにべたっと張り付いたような感じ。

オオカマキリ (カマキリ科)

Tenodera aridifolia (Stoll, 1813)



鳥取市東町産 成虫
右上 腹面
右下 後翅

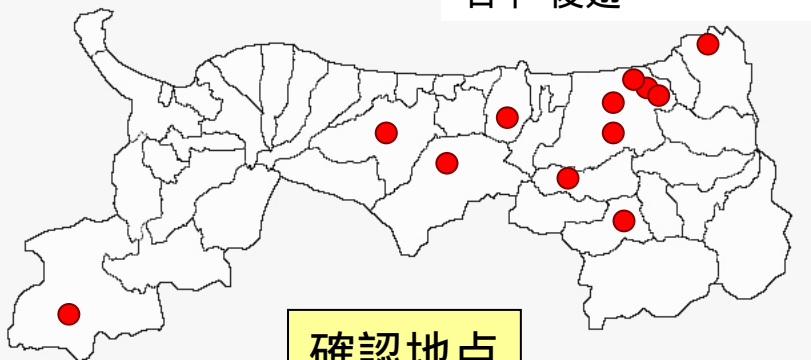
これまでの知見

草原などで見られる頑丈な体躯の大型のカマキリ。

県下には普通で個体数も多い。

胸の中央が薄い黄色であることや、後翅が紫色であることなどでチョウセンカマキリと区分できる。

卵嚢は草の茎や灌木の枝などでよく見られ、丸い大きな鞍型をしており、地方によってはその形状より「オジジガフグリ」という別名あり。



確認地点